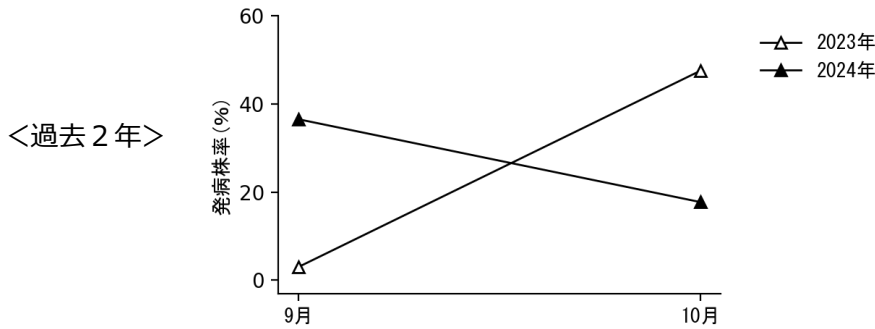
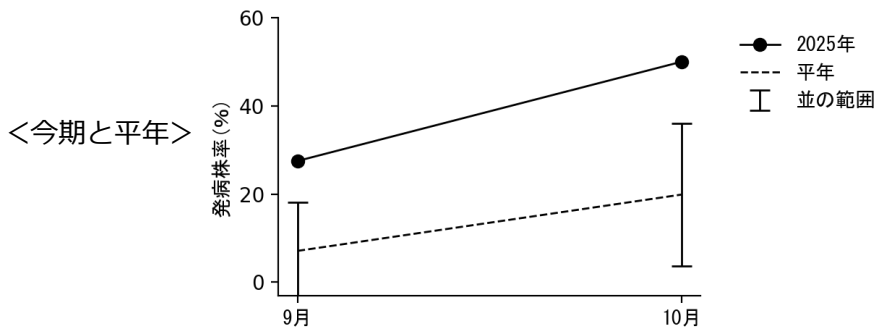


作物	水稻（2期）		地域	八重山群島
病害虫名	葉いもち病			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	10 月からの増減傾向	—		
	11 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

発病株率の推移



・発生ほ場率87.5%（平年：56.7%）

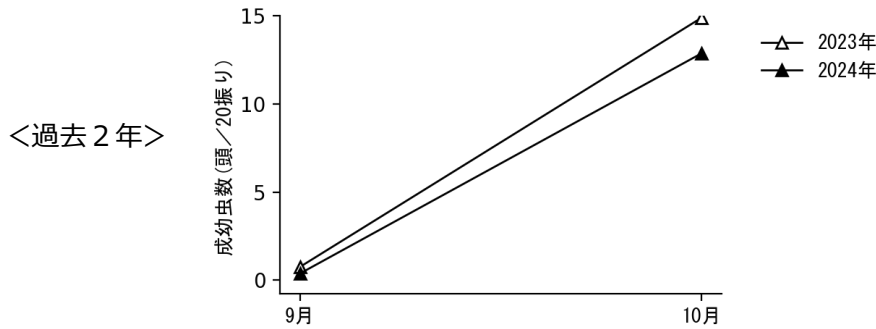
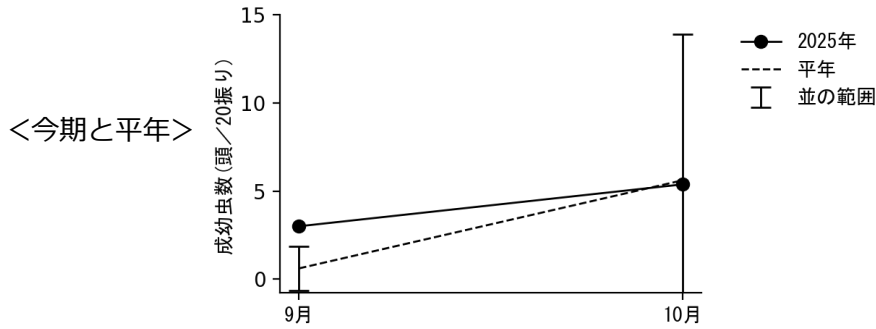
防除のポイント

- ・収穫後の被害わらは次作の感染源となるため、水田付近に放置しない。
- ・汚染もみは次作の感染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

作物	水稻（2期）		地域	八重山群島
病害虫名	斑点米カメムシ類		 タイワンクモヘリカメムシ	
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	—		
	11 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：タイワンクモヘリカメムシ
- ・発生ほ場率62.5%（平年：62.7%）

防除のポイント

- ・次作に向けた密度低減を図るため、畦畔および水田周辺の除草を行う。



アカカメムシ



ホソハリカメムシ

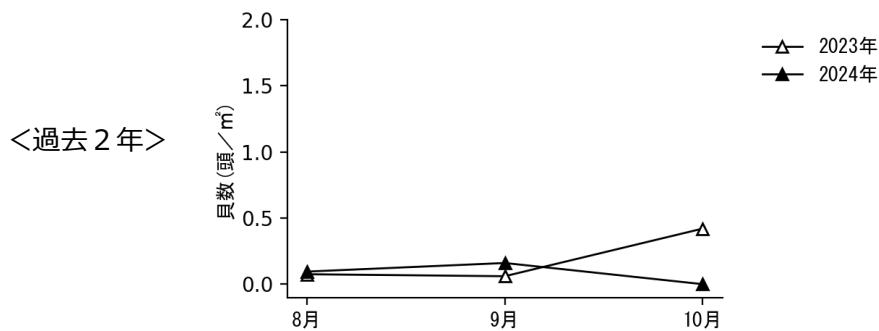
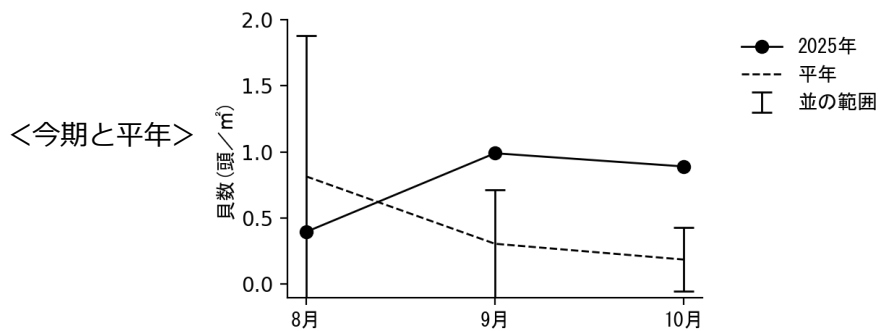


斑点米

作物	水稻（２期）		地域	八重山群島
病害虫名	スクミリンゴガイ			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	多		
予報	10 月からの増減傾向	—		
	11 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

貝数の推移



- ・発生ほ場率75.0%（平年：32.4%）
- ・一部ほ場で多発生が確認された。

防除のポイント

- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- ・次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。
- ・収穫後は通常より浅く、遅い速度で丁寧に耕耘し、成貝を破碎する。



卵

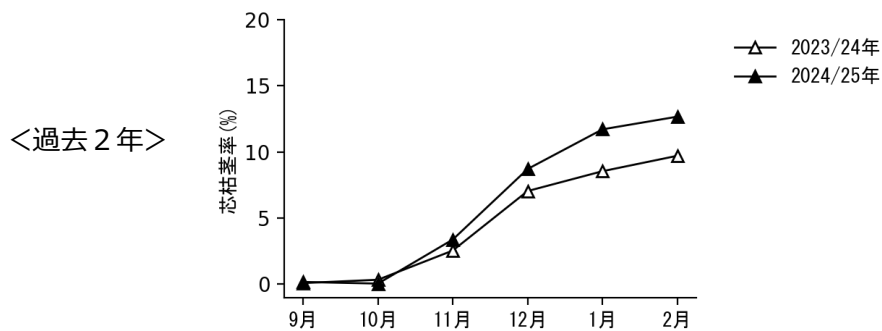
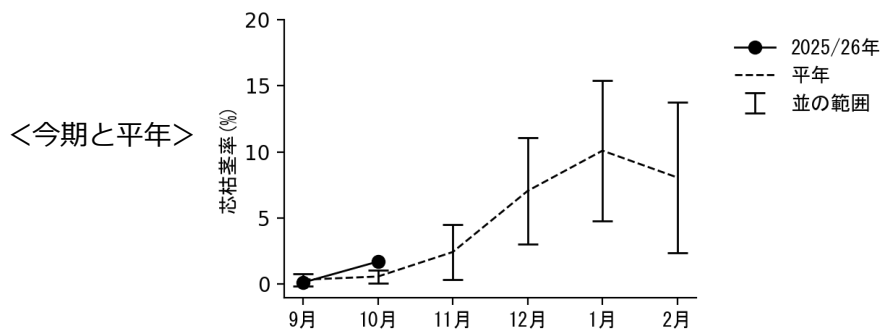


株元に寄生する稚貝

作物	さとうきび		地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	10 月からの増減傾向	↗		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

芯枯茎率の推移(夏植え)



・発生ほ場率66.7%（平年：46.3%）

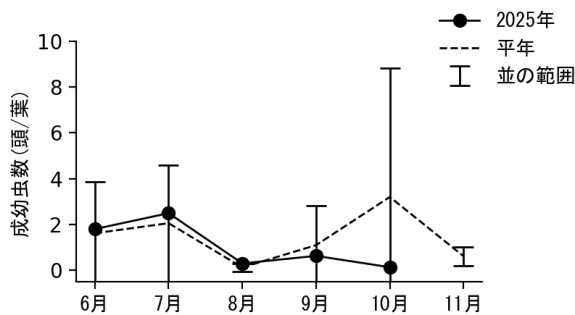
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

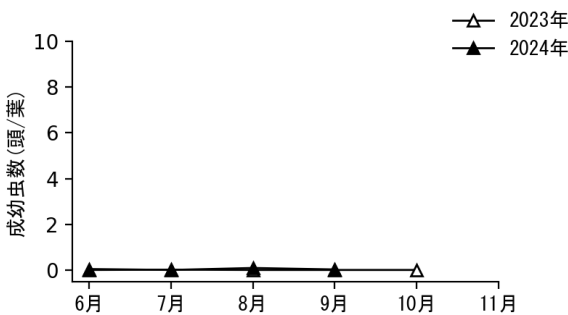
作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予 報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量（平年比）	やや少		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

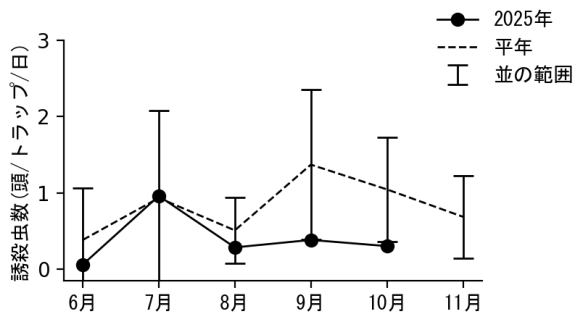
葉当たり成幼虫数の推移（今期と平年）



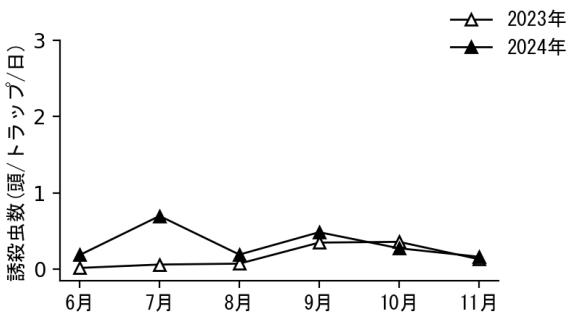
葉当たり成幼虫数の推移（過去2年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（今期と平年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（過去2年）



・発生施設率80.0%（平年：71.1%）

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

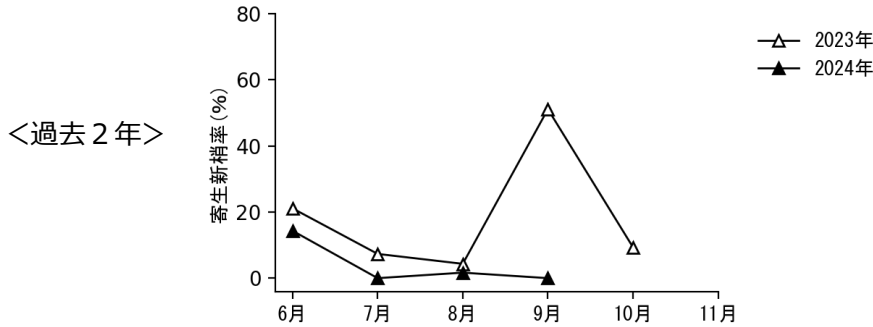
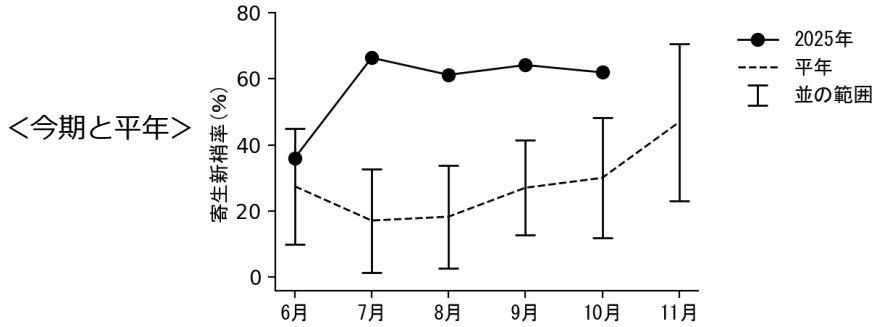


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	やや多		
予報	10 月からの増減傾向	→		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		新梢の発生量が減少するため		

調査結果

寄生新梢率の推移



・発生施設率100%（平年：64.3%）

防除のポイント

- ・産卵から羽化まで約2週間と繁殖スピードが速いことから、新葉をよく観察し、早期発見・防除に努める。また高密度に寄生された葉は落葉が早く、幼虫の脱出痕から炭疽病等にも感染しやすくなることから、被害葉及び不要な新梢を除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・高湿度条件で幼虫や蛹の生存率が高まることが知られているため、施設内の湿度管理に留意する。

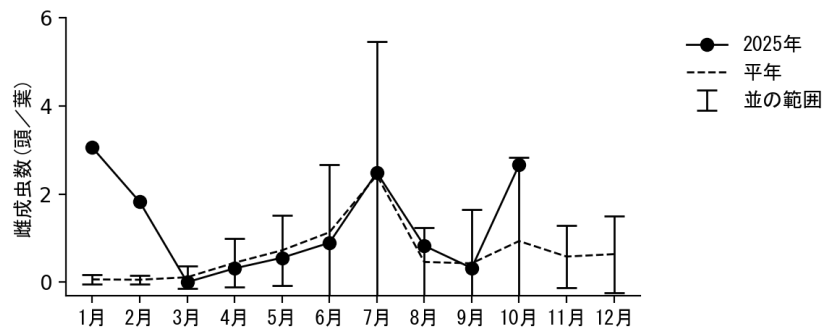


作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類		 マンゴーツメハダニ	
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量（平年比）	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

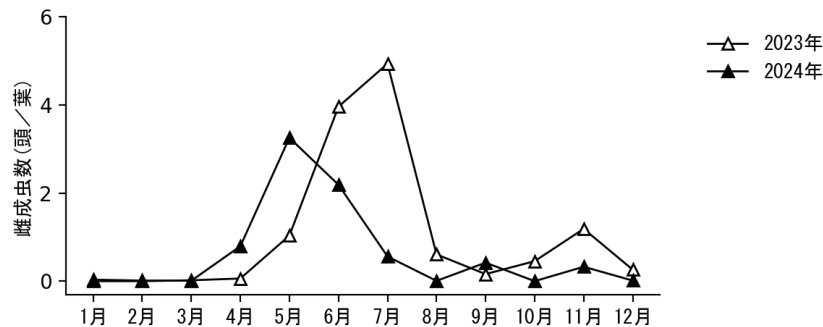
調査結果

雌成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：マンゴーツメハダニ、シュレイツメハダニ
- ・発生施設率40.0%（平年：32.0%）
- ・一部ほ場で多発生が見られた

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難となるため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・冬季はマシン油乳剤による防除が効果的である。本薬剤は天敵に影響が少なく天敵を保護しながらの防除が期待できる。

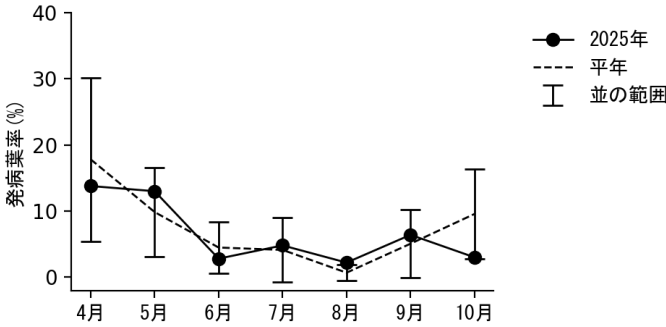


作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	うどんこ病			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予 報	10 月からの増減傾向	—		
	11 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

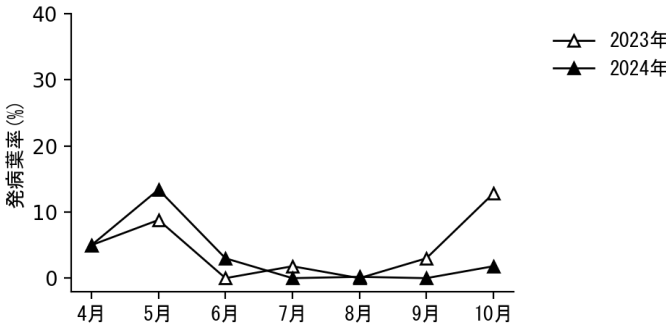
調査結果

発病葉率の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生ほ場率80.0%（平年：64.0%）

防除のポイント

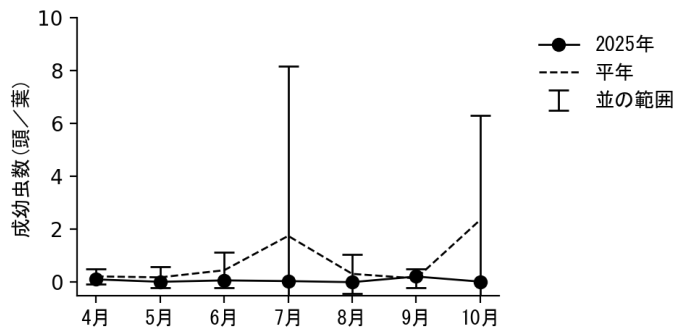
- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。
- ・被害葉を除去し、適宜薬剤散布を行う。

作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	アブラムシ類			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	—		
	11 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

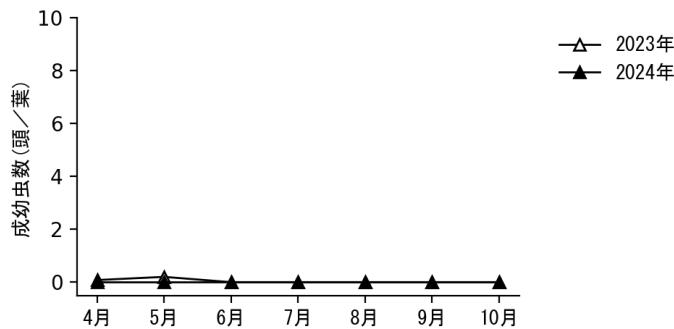
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生ほ場率20.0%（平年：46.0%）

防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。



長点付近に密生したワタアブラムシ

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

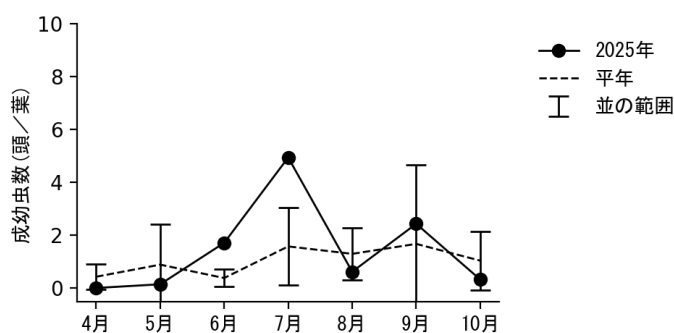


成虫

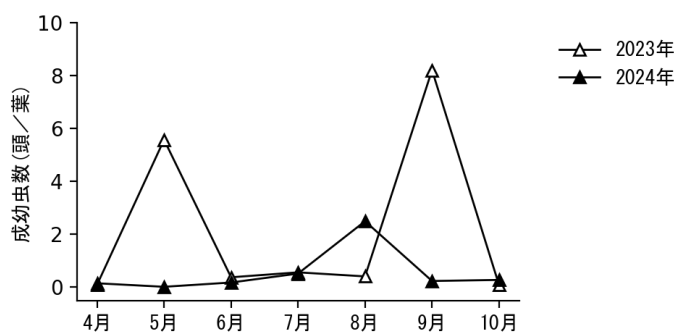
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生ほ場率80.0%（平年：92.0%）

防除のポイント

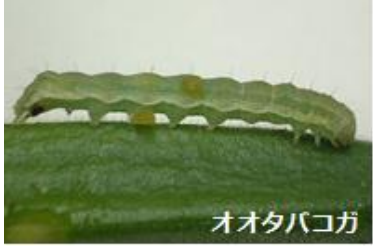
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



幼虫



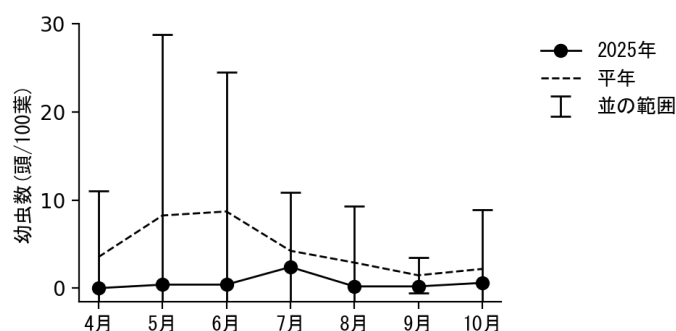
被害葉

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	チョウ目幼虫		
調査結果	10 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠		 オオタバコガ	

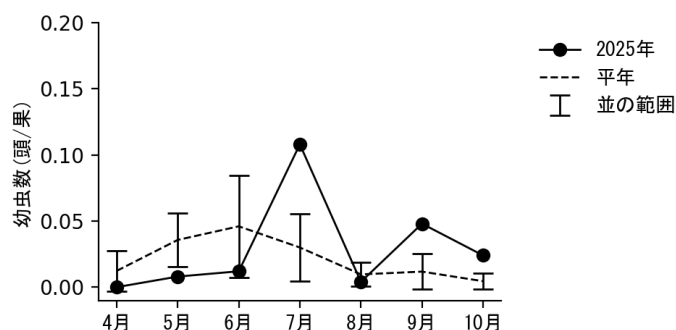
調査結果

幼虫数の推移

<葉>



<果実>



- ・発生種： 葉：ワタノメイガ、フタトガリコヤガ 果実：オオタバコガ
- ・発生ほ場率 葉：40.0%（平年：18.0%）、果実：60.0%（平年：15.0%）

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。また同系統薬剤の連用を避ける。
- ・オオタバコガは齢期が進むほど薬剤感受性が低下し、かつ中齢幼虫以降は蕾や果実内に潜行するためできるだけ食入前の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。



クサオビリンガ



ハスモンヨトウ



ワタノメイガ



フタトガリコヤガ



台湾キドクガ



ワタアカキリバ